

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1036
施設名	かがやき保育園
施設所在地	江東区大島7-37-13
法人名	社会福祉法人わかみや福祉会

## 1. 活動のテーマ①

<テーマ>

世界の国

<テーマの設定理>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

今までにクラス内に外国の子ども達も在籍しており、自分達との違いに気づき言葉などに興味をもっていたため、そこを深められるように今回のテーマを設定した。食育でも世界の国の料理をテーマにし、より深められるようにしていった。

## 2. 活動スケジュール

5月：韓国(チヂミ作り) 6月：イタリア(ピザ作り)  
7月：ウクライナについて(ボルシチ作り)、グループ毎に国について調べる  
8月：グループ毎に国について調べる 9月：アメリカについて(ハンバーガー作り)  
10月：中国について(餃子作り) 11月：メキシコについて(タコス作り)  
12月：フランスについて(ブッシュドノエル作り) 1月：インドについて(ナン作り)  
2月：日本について(太巻き作り) 3月：イングランドについて(アップルパイ作り)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・世界の国についての図鑑
- ・世界の国の「いただきます」がわかるような絵本
- ・世界の国の料理や文化がわかるような写真
- ・子ども達が調べた事(メモ)を貼れるスペース
- ・国旗カード
- ・世界地図
- ・ミライタッチ

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・食育活動にて世界の国の料理を作る、味わう
- ・食育をきっかけに国について調べる(本やミライタッチ等を活用して園で調べたり、家庭で保護者と共に調べたりする機会を設けた)
- ・調べたことを紙に書いてまとめたり、発表したりする
- ・国ごとの挨拶について調べる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・チヂミ作りの際、「韓国の人はどうやっていただきますっていうんだろう」という子どもの声を受け、すぐに調べ、実際に韓国語で挨拶をしてから食事をした。すると翌月のピザ作りの際にも挨拶に興味を示す姿が見られた。調べていく中で、いただきますに該当する挨拶がない国があることも分かり、子ども達は興味を示していた。普段の給食で中華料理やイタリアンなどのメニューが出た際にも得た知識を用いて挨拶をする姿もみられた。
- ・グループで国について調べる活動の際、国旗の模様や色に興味を示す姿が見られた。調べる国を決めるきっかけに大きく影響している様子がみられ、調べた際に国旗を描く取り組みを追加した。国旗を描いた後、さらに興味は広がり、保育室に貼ってある世界地図をよくみるようになった。国同士で似ている国旗を探したり、色の違いなどに気付いたりして子ども同士で共有し合っていた。
- ・家庭にも協力を仰ぎ、グループで調べる活動を深めていった。家庭で保護者と共に調べた内容を一人の子がメモにまとめて登園した。メモを見て発表し、書いたメモが壁に貼られると翌日からメモを書いてくる子が増えた。メモの中にはその国特有の料理や、気候などの自然について、スポーツについてなど様々な内容が書かれてあり、国同士の共通点や違いを発見するのにとても役立っていた。また、他の国についても調べて良かさを保育者に尋ねる子も多く、探求心を認めることで意欲的に取り組む姿がみられた。
- ・ミライタッチを使用し、対象の国の風景や料理の写真を共有したり、子ども達とのやり取りを通し、様々な国が参加するワールドカップ等のイベントについて調べたりした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・世界の国についてというテーマで進めるにあたり、調べるだけでなく、料理を通して視覚や味覚等も通して、文化の違い等にも触れることが出来る取り組みにしたことで、子どもの興味もさらに広がった様思う。食事等の生活の中で身近なものと繋げることで継続した取り組みにも繋げやすかったことも活動を進めるにあたってとても良かった。
- ・食事の挨拶やメモを書くこと、国旗についてなど子ども達のブームを見逃さずに探究活動を広げられるような環境を提供することがとても大切だと思った。その時々にあったものを足し引きしながら提供することで子ども達が主体的に活動に取り組んでいた。また、保護者を巻き込む活動をしたことも、子ども達の調べる意欲を高める要因になっていたように思う。保護者とも取り組みを通して、送迎時に話をするきっかけにもなり良かった。

## 1. 活動のテーマ②

<テーマ>

ヤモリ

<テーマの設定理由>

前年度から飼っているヤモリだったため、子ども達も興味がありヤモリについて深めたいと思ったから

## 2. 活動スケジュール

5月 エサ探し

6月 ヤモリの観察画

11月 捕食の様子を観察する

・日々の保育の中でヤモリの観察をしている

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・虫かご
- ・画用紙
- ・エサ
- ・クレパス
- ・ライトテーブル
- ・ミライタッチ（電子黒板）

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・エサ探し  
図鑑で調べた情報を元に近くの公園へエサを探しに行った。
- ・ヤモリの観察画  
グループ毎にライトテーブルの上に乗せたヤモリを観察し、その後観察画を描いた。
- ・捕食の様子を観察  
ミライタッチを使用し全員で捕食の様子を観察し、共有した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

#### ・エサ探し

園庭にいるアリやダンゴムシは図鑑で調べた所、体が硬いため食べないということを知ったため蜘蛛や幼虫、蛾をメインに探す事になった。どういう所にエサになる虫がいるかそれぞれ考えながら公園内を探す姿が見られた。

#### ・ヤモリの観察画

ライトテーブルに乗せたことで、体が透けるかと予想していたが思いの外透けないという事に気づいた。子ども達から「触ってみたい」との声があがり、触りたい子は触れていった。しつこくしたことで初めて口を開ける所を見てなぜ開けるのか考えた。(威嚇だった)その後観察画を描いた。背中模様を意識する子や色も思い出しながら描く姿が見られた。

#### ・捕食の様子を観察

ミライタッチを使用して全員で観察した。3匹いたので、1匹ずつ観察したが一番始めから飼っていたヤモリのみ捕食の様子を見ることができた。エサを見つけ目で追う様子もわかり、コオロギを食べた時は子ども達が「食べた！」と喜び拍手が起こった。他の2匹は人がいない時にエサを食べているという事がわかった。

・日々子ども達からの疑問について調べていった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・命を大切する事を知る機会となった。2匹を飼い始めたあとにみつけた「カナヘビ」も飼ってみようということになったが、3日程で死んでしまい生き物を育てる事の難しさを学ぶ事ができた。
- ・普段の外遊びの際に虫探しが「マリーちゃん(ヤモリ)食べるかなあ」とただ探すだけではなく、子ども達にとってヤモリが身近な存在になっている事が感じられた。自分達との食べ物との違いを理解しているからこそ、生餌を一生懸命探していたようだった。
- ・クラスで行っている給食の完食メダル(全員がご馳走様に間に合った時にもらえるメダル)もヤモリがエサを食べた際に「あげた方がいいんじゃない」という意見もあがり、小さいメダルを用意するなど、子ども達はヤモリを「クラスの一員」として過ごしているのだと感じている。

## 1. 活動のテーマ③

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

水は子どものたちの触れる身近なものであり、日頃から水に興味を持っている姿が見られたから。

## 2. 活動スケジュール

- ・6月 水触れる（浮くもの、浮かないもの調べ）
- ・8月 スライム作り
- ・10月 色水あそび

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・虫かご、つまみ、新聞紙
- ・ボウル、スプーン、ホウ砂、食紅、洗濯糊
- ・透明プラカップ、絵の具、筆

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水触れる（浮くもの、浮かないもの調べ）

小さい虫かごに水を入れて、水の中に子ども達が物を入れて浮くか、浮かないかを調べた。

- ・スライム作り

グループ毎に好きな色を選び、食紅を混ぜてスライムを作って感触を楽しんだ。水がスライムに変わる様子を楽しんだ。

- ・色水あそび

透明プラカップに水を入れて、そこに絵の具で色をつけジュース作りを楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・水に触れる（浮くもの、浮かないもの調べ）

「浮いた！」と喜んだり、「こうやってやると、浮くなあ。」など子どもによっては工夫しながら水の中に物を入れる姿が見られた。後半は水遊びに発展していたが、水の感触は十分に楽しんでた。

- ・スライム作り

グループ毎に子どもたちに水をかき混ぜてもらった。その後、保育者が目の前で水にホウ砂と食紅を入れ、混ぜて見せた。混ぜる段階で水の形状が変わっていく事に気づき「かたまつた」「できた」と喜んでた。作った物を実際に触る際に、掌にたくさんつけて豪快に感触を楽しんだり、伸ばして見る子もいれば、慎重に手が汚れないように触る子もいた。

- ・色水あそび

好きな色を入れ、できた色を「こんな色になった」と保育者や友達に見せていた。途中でジュースなどに見立て「かんぱーい」と言って楽しむ子もいた。3原色+白を用意していたが、全ての色を混ぜる子もいれば、2色程度で終わりにする子もいた。

・計画した活動ではなかったが小麦粉粘土の活動で、小麦粉粘土を子ども達の前で作る際に小麦粉に水を混ぜ、形状が変わったことに気づき「かたまつた！」という子ども達からの気づきがあった。（その後のスライムのヒントとなった）



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・水に浮くか浮かないかを行った時は水に物を入れることが楽しくなってしまう、浮く浮かないに興味を持つことが出来ていない様子だった。その後の遊びで玩具を持ってきて浮くか浮かないか等気にして遊ぶようになり、日々の遊びの中で水を意識して遊ぶ姿が見られた。

・色水やスライム作りなど水にプラスで何かを入れると固まったり、色が変わったりする事には興味を持って取り組むことが出来ていた。色水では、去年度のすくわくで色をテーマに行っていたので、混ぜてどんな色になるかを楽しみながら、水をさらに入れると薄くなる等様々なことに気づくことが出来ていた。

・水について探求することをテーマに行っていたが、『探求』にしてしまうと3歳児クラスだと難しいように感じた。その為、「水に触れて遊ぶ」「遊び楽しみながら水について知っていく」という事に少し変えることで、より興味を持ってすくわくに参加出来る子が増えたので良かった。